

04. チビタ・ディ・バニョレージョ



チビタ・ディ・バニョレージョ は、ローマ北部のオルヴィエート近郊のバニョレージョにある小さな町です。この町は山上の風雨によって浸食した土地の上にあり、天空の城を彷彿させる。この町が作られたのは、今から 2500 年以上前にエトルリア人によって作られたとされている。この地でも幾度となく争い戦いがあったと思われるが、この町自体が要塞そのものであったろうと思われる。事実、この町に入る道は一本道で、かなりの高低差があり、攻め入れる状況ではない。今でこそ、道（橋）が、整備されているが、当時は、生活するだけでも、大変な苦勞と引き換えに安心を得たのだと思う。こんな状況でか、住民は 20 名足らずだが、中央には鐘楼のある教会と広場があり、小さいながらも、イタリアらしい雰囲気です。ローマやフィレンツェの様に観光客が多くなく、落ち着いた石造りの街並みで、要所々に植栽が置かれ、人の優しさ、ぬくもりを感じることできる町でもう少し時間があれば、ゆっくりと散策したかった。めったに、行けないこの町に来れた事は、非常にラッキーだったと思う。ただ、この町の別名は、「死に行く町」「滅び行く町」ともいわれ、土地の風化が進んでいるが、後世に何とか残ってもらいたいと祈るばかりです。

（石川 清郁）